

第2領域「授業研究の理論と実践」

一柳 智紀

本共通必修科目は、特定連携協力校の浜浦小学校にて開講された。授業者は小久保、高木、一柳、兵藤、井口、受講者は17名であった。到達目標は①授業を量的・質的側面から分析し評価をすることができる、②授業分析法を用いた授業研究を行い、授業改善に生かすことができる、である。

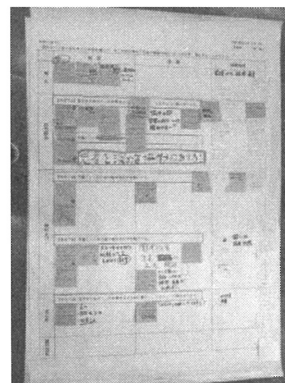
1. 授業の概要

1) 浜浦小学校の授業研究会への参加

浜浦小学校で行われている授業研究会（研究授業、授業協議会）に2回にわたって参加し、浜浦小学校における授業実践から学びつつ、授業後の協議会において浜浦小学校の先生方が何を大切にし、どのように授業を見取り、検討しているのかを、院生各自の勤務校と比較しながら学んだ。

2) 院生による授業実践と協議会の実施

上記の学びを踏まえ、どのような授業協議会がより充実した学びを実現できるかを検討した。その後、実際に浜浦小学校で実習を行う三條院生の授業を参観し、協議会を行なった。院生チームの発案に基づき、グループごとに参観する児童を決め、そこで見取った事実をシートに整理しながら協議会が行われた（右写真）。



3) 院生による授業実践の分析

量的・質的に授業を分析する理論や方法を、教員が具体的な分析例を用いて紹介した。その後、院生がグループでそれぞれに観点や方法を定めて分析を行った（右写真）。分析結果の発表では、授業後の協議会では気づかなかった子どもの学びや、教師の働きかけの意味、授業の改善点が語られた。



2. 次年度に向けて

授業研究のプロセスを特定連携協力校の先生方と共有しながら協働できるよう検討する。